

田辺三菱製薬株式会社



田辺三菱製薬

# 2016年度 決算説明会

(2016年4月1日～2017年3月31日)

2017年5月11日

代表取締役社長 三津家 正之

# 2016年度 決算概要

2016年度第1四半期から国際財務報告基準(IFRS)を  
任意適用しています  
(当社発表決算数値については億円未満切り捨て表示)

## 2016年度 決算ハイライト

売上収益	4,239億円 (対前期比 $\Delta$ 0.4%)
コア営業利益	945億円 (対前期比 $\Delta$ 11.7%)
営業利益	940億円 (対前期比 +15.0%)
当期利益(親会社帰属)	712億円 (対前期比 +20.2%)

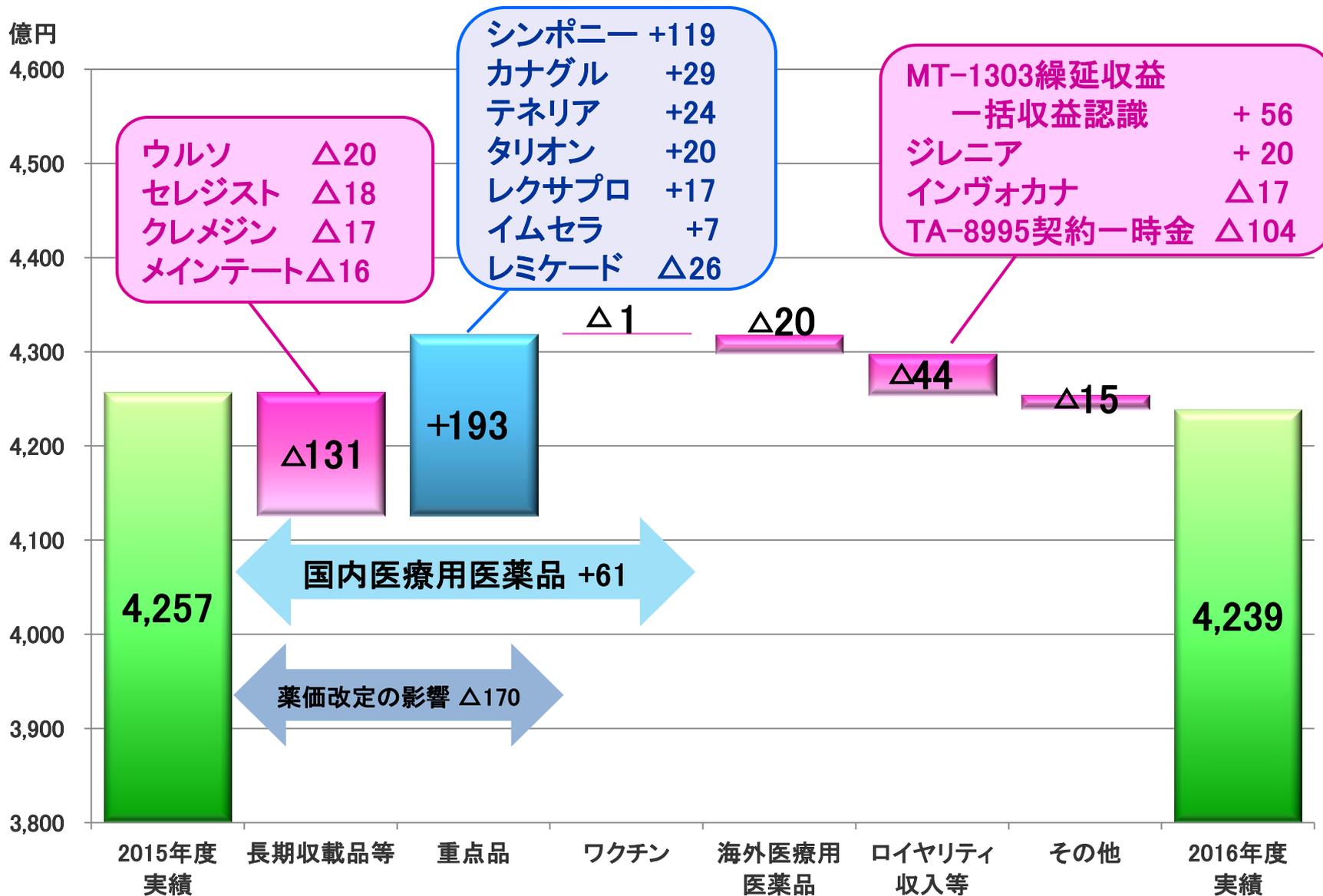
## トピックス

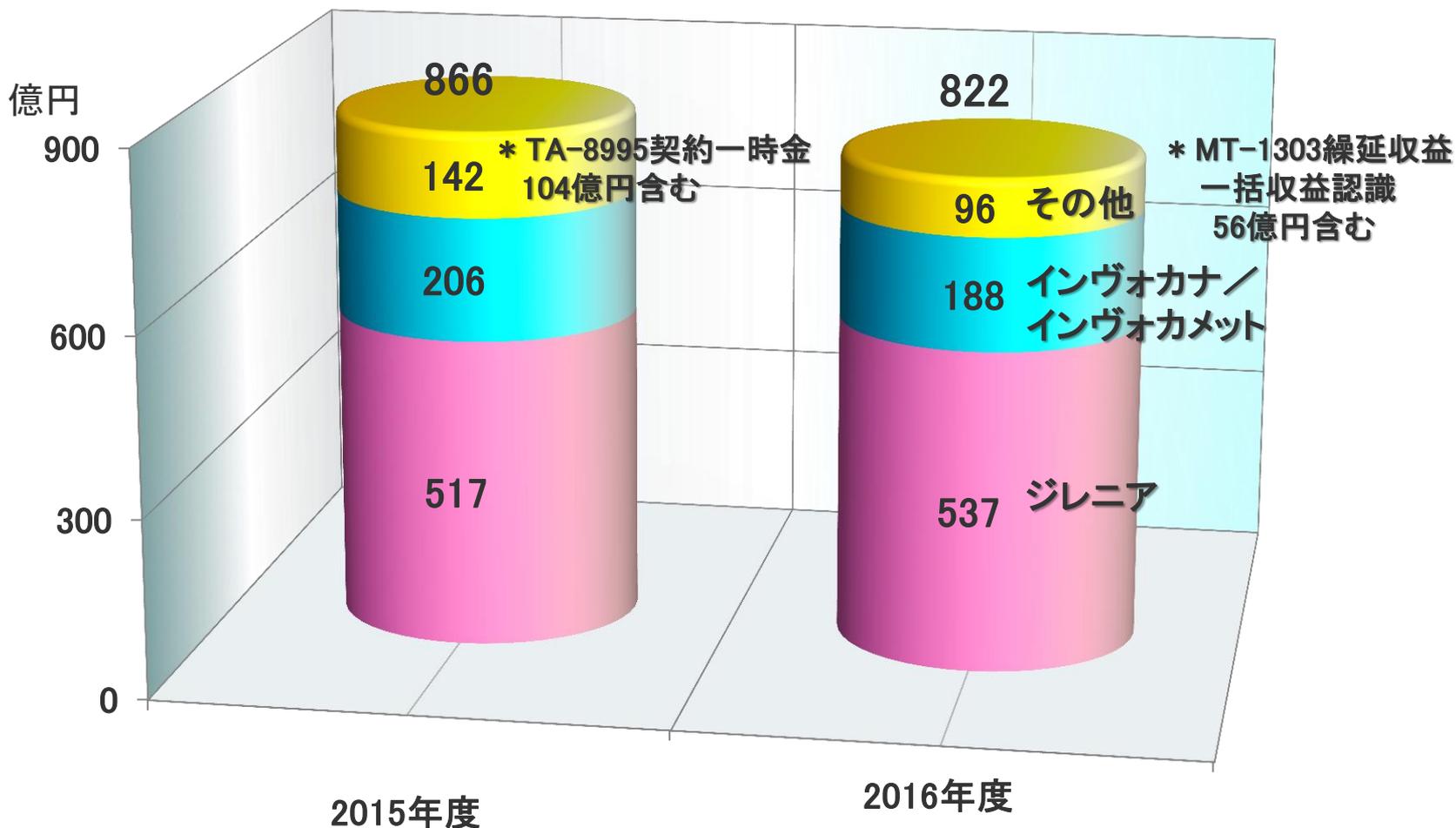
- ◆ 売上収益は、シンポニー等の重点品が堅調に伸びたものの、薬価改定の影響、長期収載品の減少に加えて、前期に導出一時金収入があったため、前期比0.4%減収
- ◆ コア営業利益は、減収に加え、米国における販売準備費用の増加などもあり、減益
- ◆ 営業利益は、前期に構造改革費用の発生があったため、非経常項目が大幅に改善し、増益
- ◆ 通期の親会社に帰属する当期利益は、過去最高益
- ◆ ALS治療薬「ラジカヴァ」米国FDAによる承認取得

	2016年度	2015年度	増減		※2016年度 予想
	億円	億円	億円	%	億円
売上収益	4,239	4,257	△17	△0.4	4,250
（うち海外売上収益）	1,036	1,103	△67	△6.1	1,030
海外売上比率	24.4%	25.9%		△1.5	24.2%
売上原価	1,643	1,558	+85	+5.5	1,630
売上原価率	38.8%	36.6%		+2.2	38.3%
売上総利益	2,595	2,699	△103	△3.8	2,620
コア営業利益	945	1,069	△124	△11.7	970
営業利益	940	818	+122	+15.0	960
当期利益（親会社帰属）	712	593	+119	+20.2	720
為替(\$)(期中平均)	108.72円	120.16円			110.00円

※2016年度予想:2016年度第3四半期決算発表時(2017年2月6日)公表

# 売上収益の増減





<為替レート(期中平均)>  
米ドル

2015年度  
120.16円

2016年度  
108.72円

## 売上原価・販管費・コア営業利益

	2016年度	2015年度	増減	
	億円	億円	億円	%
売上収益	4,239	4,257	△17	△0.4
売上原価	1,643	1,558	+85	+5.5
売上原価率	38.8%	36.6%		+2.2
売上総利益	2,595	2,699	△103	△3.8
販管費	983	963	+19	+2.0
研究開発費	647	646	+1	+0.3
製品に係る無形資産償却費	15	14	0	+3.7
その他損益*	△4	△5	0	-
コア営業利益	945	1,069	△124	△11.7
総人件費	727	807	△80	△9.9

\* 費用・損失の場合に△と表示

	2016年度	2015年度	増減	
	億円	億円	億円	%
コア営業利益	945	1,069	△124	△11.7
非経常項目*	△4	△251	+247	—
営業利益	940	818	+122	+15.0
金融収益	22	29	△7	△26.1
金融費用	2	15	△13	△84.7
当期利益(親会社帰属)	712	593	+119	+20.2

\* 費用・損失の場合に△と表示

# 中期経営計画16-20の実現に向けた 2016年度の成果および2017年度の取り組み

## 1 パイプライン価値最大化

- 後期開発品目標  
10品目創製(導入品含む)
- 研究開発投資  
4,000億円

投資

## 3 米国事業展開

- 米国売上収益目標  
800億円(2020年度)
- 米国戦略投資  
2,000億円以上

## 2 育薬・営業強化

- 国内売上収益目標  
3,000億円(2020年度)  
新薬および重点品売上比率75%
- 重点疾患領域  
自己免疫、糖尿病・腎、中枢神経系、  
ワクチン

収益

## 4 業務生産性改革

- 売上原価・販管費削減目標  
200億円(2020年度:対15年度比較)
- 従業員数  
国内連結5,000人体制\*  
\*2015年9月末現在:6,176人

## 1 パイプライン価値最大化 ～後期開発品10品目候補～



後期開発10品目候補		Phase1	Phase2 / POC試験	後期開発試験
2016年度 成果		3品目	2品目	1品目
2017年度 予定		1品目	2品目	5品目
自己免疫 疾患領域	MT-1303	日:炎症・自己免疫	欧:MS, PS, CD 日:CD	
	MT-5547			
	MT-7117	欧:皮膚科用剤 等		
	自社新規プロジェクト			
糖尿病・腎 疾患領域	MT-6548		日:腎性貧血	
	MT-3995		日:NASH 日、欧:糖尿病性腎症	
中枢神経系 疾患領域	MT-5199	日:遅発性ジスキネジア		
	MT-8554	欧:神経系用剤 等		
ワクチン その他	MT-2355			日:4混+Hib
	植物由来VLPワクチン		米、加:季節性インフル	
	MT-4129	欧:循環器官用剤 等		

2016年度の成果

2017年度の予定

# 1 パイプライン価値最大化

## 自己免疫疾患領域

品目	2016年度の成果	2017年度の取り組み
MT-1303 (アミセリモド /S1P受容体機能 的アンタゴニスト)	バイोजェン社とのライセンス 契約終了 クローン病のPhase2 (日本・欧 州) トップラインデータ取得	後期開発試験の開始(海外)、 2020年度以降の米国上市を めざす
MT-5547 (ファシヌマブ/抗 NGF抗体)	日本人でのPhase1終了	後期開発試験の開始(国内)
MT-7117 (皮膚科用剤 等)	Phase1開始	POC試験開始(海外)
Invossa (インボサー/ 細胞治療薬)	Kolon Life Science社とライセン ス契約締結	日本における 開発に向けて準備検討

# 1 パイプライン価値最大化

## 糖尿病・腎疾患領域

品目	2016年度の成果	2017年度の取り組み
MT-6548 (バダデュスタット/HIF-PH阻害剤)	Phase2開始(日本、腎性貧血)	後期開発試験の開始(日本)、 2020年度までの上市をめざす
MT-3995 (選択的ミネラルコルチコイド受容体拮抗剤)	糖尿病性腎症のPOCを取得 Phase2開始(日本、非アルコール性脂肪性肝炎)	価値最大化をめざし、導出も 視野に入れて活動

# 1 パイプライン価値最大化

## 中枢神経系疾患領域

品目	2016年度の成果	2017年度の取り組み
MP-214 (カリプラジン/ドパミンD3/D2受容体パーシャルアゴニスト)	Phase2b/3(日韓台、統合失調症)でプライマリエンドポイント達成せず	2017年度第1四半期までに、今後の方針を決定
MT-5199 (バルベナジン/VMAT2阻害剤)	Phase1開始 (日本)	後期開発試験の開始(日本、遅発性ジスキネジア)
MT-8554 (神経系用剤 等)	Phase1実施中	POC試験開始

# 1 パイプライン価値最大化

## ワクチン

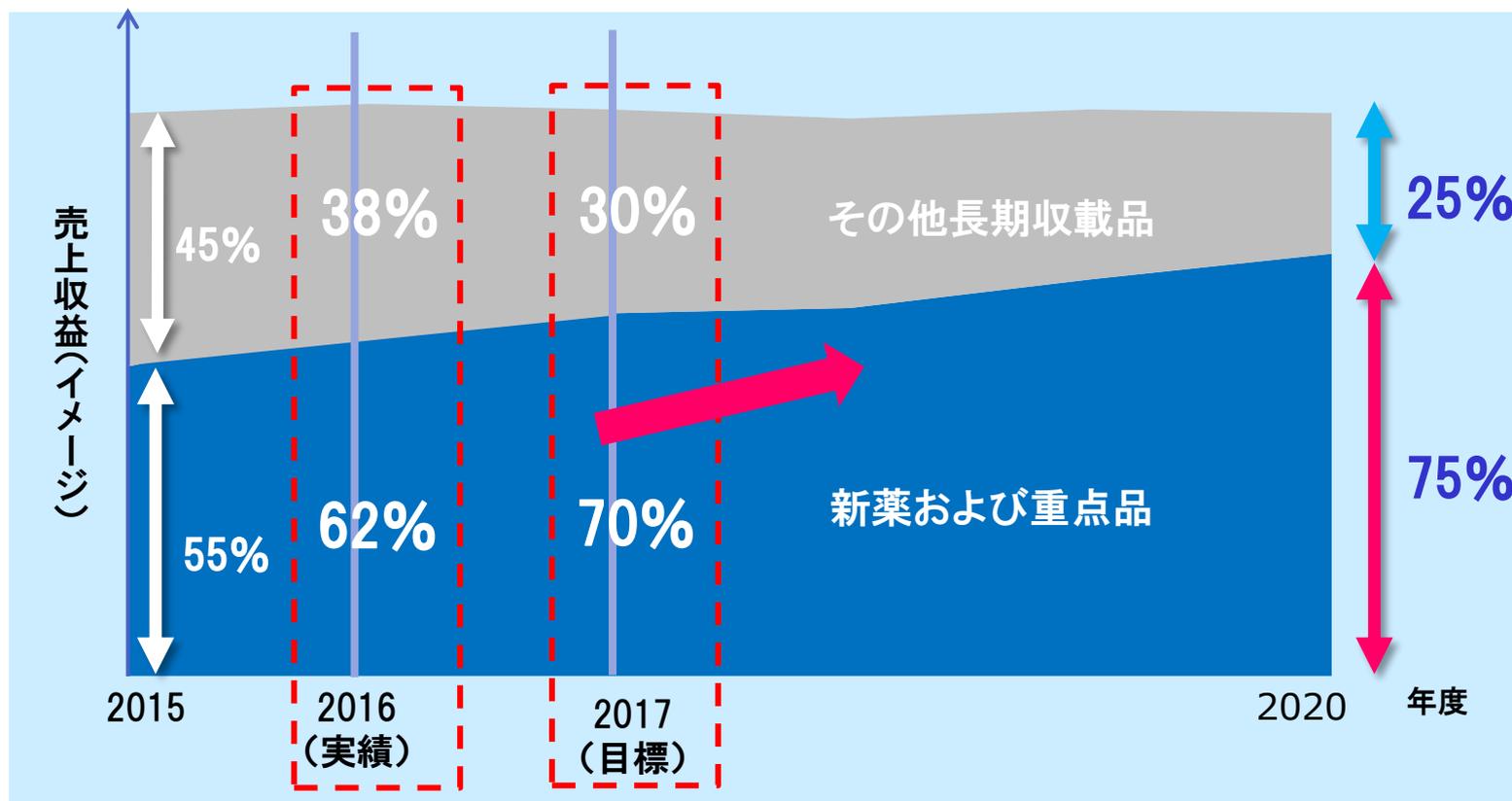
品目	2016年度の成果	2017年度の取り組み
MT-2355 (4混+Hibワクチン)	Phase3開始(日本)	
植物由来VLPワクチン (季節性インフルエンザ)	Phase2実施(米国・カナダ)、データ取得	後期開発試験の開始(海外)、北米で2020年度の販売開始をめざす

## その他

品目	2016年度の成果	2017年度の取り組み
MT-4129 (循環器官用剤 等)	Phase1開始	

## 2 育薬・営業強化

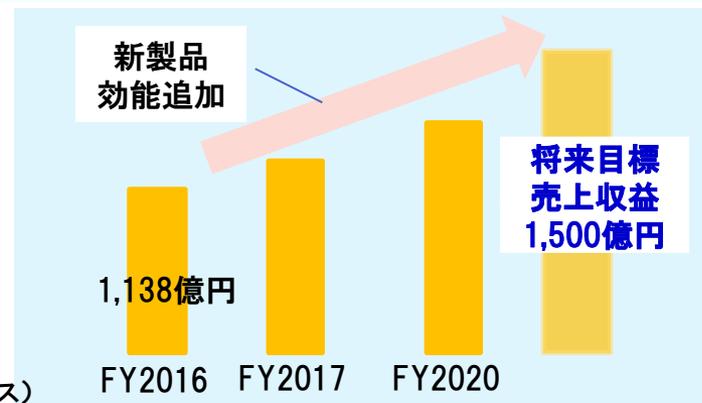
国内売上収益3,000億円、新薬および重点品比率75%に向けて、国内市場環境が厳しさを増す中、育薬・営業強化により新薬および重点品の売上収益目標を達成し、2020年以降の躍進につなげる



## 2 育薬・営業強化

### 自己免疫疾患領域

静注・皮下注両剤の価値最大化、新規製品で強みの領域を幅広くカバー  
 将来目標売上収益1,500億円を達成する



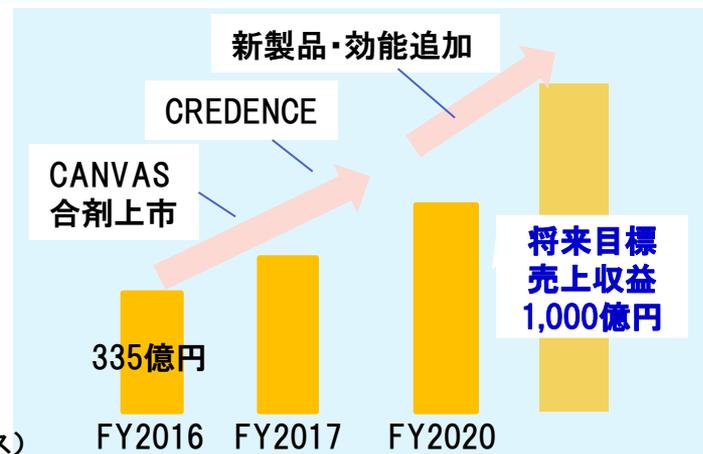
品目	2016年度の成果	2017年度の取り組み
レミケード	クローン病での投与間隔短縮 申請	承認
		ステラーラと合わせてクローン病におけるシェアの最大化
シンポニー	レミケード・シンポニー シェアNo.1 (2016年度シェア 39%)	静注・皮下注両剤のメリットの最大化によるシェア拡大
	関節リウマチについて販売枠組み変更契約を締結	
	潰瘍性大腸炎の効能追加承認	ヤンセンファーマとの協業体制強化によるシェア拡大
ステラーラ	クローン病適応について販売提携契約締結	

## 2 育薬・営業強化

### 糖尿病・腎疾患領域

糖尿病・腎疾患領域での製品ラインナップを強化  
領域でのプレゼンスNo.1をめざし、将来売上目標  
1,000億円を達成する

売上イメージ  
(数値は薬価ベース)



品目	2016年度の成果	2017年度の取り組み
テネリア	腎機能低下例・高齢者への処方 の浸透によりシェア拡大	第一三共との連携強化による シェア拡大
カナグル	安全性情報の蓄積、適正使用 に関するRecommendation改訂 等により処方増加	CANVAS/CANVAS-R発表 更なるシェア伸長をめざす
MT-2412 (テネリア+カナグル)	申請 第一三共と販売提携契約締結	承認 1 <sup>st</sup> in classで新たな治療提案

## 2 育薬・営業強化

### 中枢神経系疾患領域

品目	2016年度の成果	2017年度の取り組み
レクサプロ	SSRI市場 シェアNo.1 (2016年度シェア 39%)	抗うつ薬市場でのシェア拡大

### その他

品目	2016年度の成果	2017年度の取り組み
ルパタジン (抗アレルギー剤)	帝国製薬と販売基本契約締結	2017年度中の発売 タリオンと合わせて領域No.1をめざす

## 2 育薬・営業強化

### エリアマーケティング

地域の異質性、独自性に合致した戦略を実行する事で  
継続的に計画達成し 重点領域シェアNo.1を達成する

2016年度の成果	2017年度の取り組み
全営業所にAMP*を配置 エリアマーケティングの基盤を構築	エリア戦略強化と実行

※AMP=エリアマーケティングプランナー

### デジタルマーケティング

業界トップクラスのデジタルマーケティング体制を構築する

2016年度の成果	2017年度の取り組み
医療関係者向けサイト「Medical View Point」の新規会員数の大幅増加	デジタルマーケティング機能の活用 マルチチャネル・コーディネーターとして MR育成

### 3 米国事業展開

#### MCI-186(RADICAVA)

2016年度の成果	2017年度の取り組み
2016年6月 米国FDAへ承認申請	2017年5月5日 承認
2016年8月 米国FDA 承認申請受理	2017年8月中旬 販売
販売・サポート体制構築(販売担当者の配置と訪問先、保険償還サポート、患者サポート体制構築中)、製造・物流準備	

#### 米国パイプライン構築

2016年度の成果	2017年度の取り組み
「神経疾患領域・自己免疫疾患領域を中心とした製品ラインナップの構築」	
<ul style="list-style-type: none"> <li>- 神経疾患領域: RADICAVAに続く製品・後期開発品の獲得</li> <li>- 自己免疫疾患領域: 自社開発パイプラインの構築(MT-1303等)</li> </ul>	

## RADICAVA(ラジカヴァ)

### ◆ 承認内容

#### 【承認ラベル】

Indications and Usage: Treatment of amyotrophic lateral sclerosis(ALS)

Dosage and Administration:

an intravenous infusion of 60 mg administered over a 60-minute period according to the following schedule

- An initial treatment cycle with daily dosing for 14 days, followed by a 14-day drug-free period
- Subsequent treatment cycles with daily dosing for 10 days out of 14-day periods, followed by 14-day drug-free periods.

#### 【市販後臨床試験】

頻回投与及び高用量の有効性・安全性を検討する試験を実施予定  
(FDAと相談中)

## RADICAVA(ラジカヴァ)

### ◆ 販売について

#### 販売時期:

承認後3か月程度で供給開始となる見込み(8月中旬を予定)

#### 年間価格:

約145,000ドル(1回の薬剤費は1,086ドル)



### ◆ 患者サポート 等

#### Searchlight Support:

ファイナンシャルサポート(保険償還のカバー範囲)

治療に関する相談

インフュージョンクリニックの紹介

## 4 業務生産性改革 と 他 その他の成果

4

2015  
年度

60億円  
削減

80億円  
削減

100億円  
削減

200億円  
削減

2016年度  
目標

2016年度  
実績

2017年度  
見込

2020年度  
目標

他

1. ビケン財団の子会社・株式会社BIKENとの資本・業務提携
  - ・ ワクチンのさらなる安定供給への貢献
2. ジェネリック医薬品事業をニプロへ譲渡
  - ・ 新薬事業への集中を図る

# 2017年度 業績予想

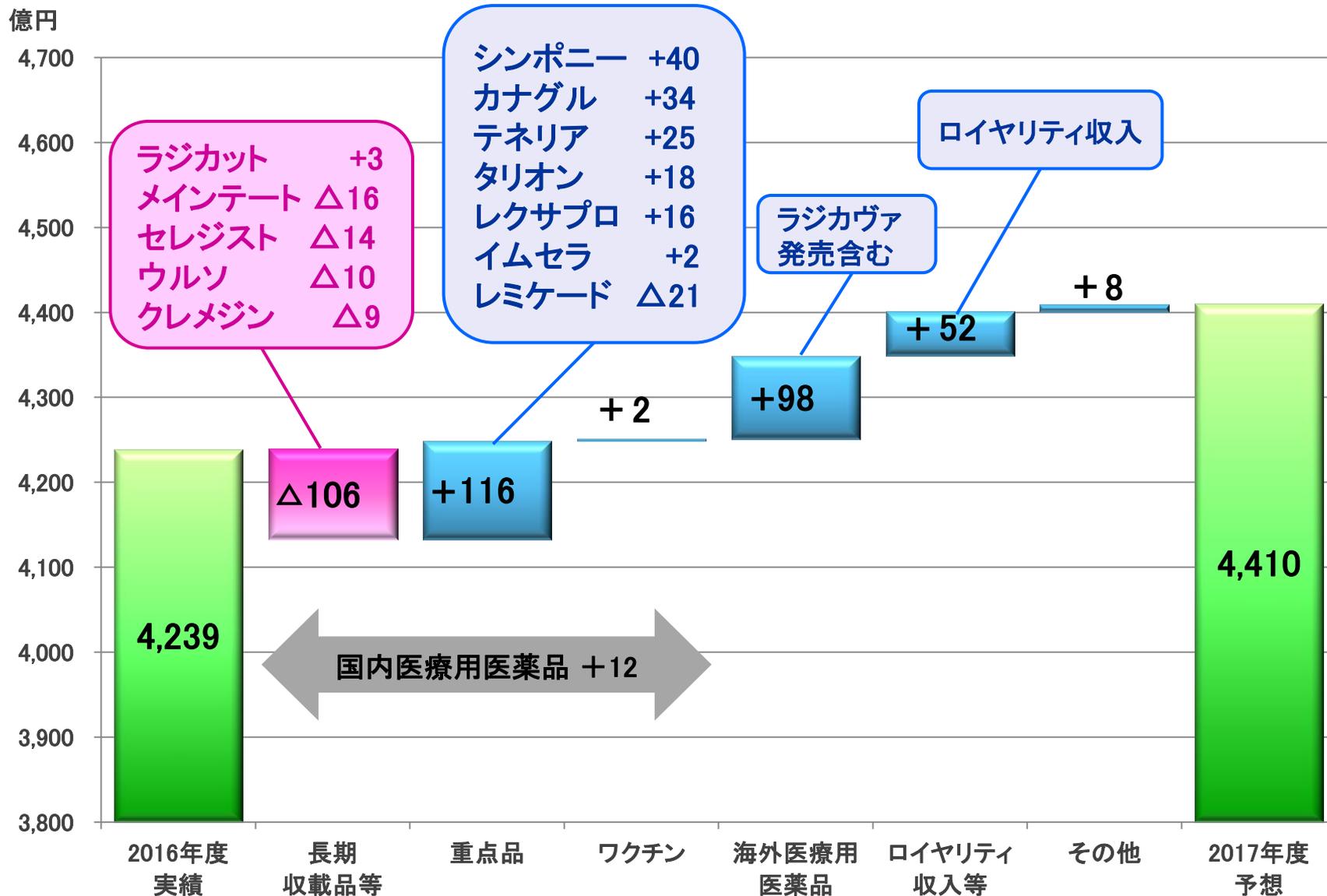
	2017年度 予想	2016年度 実績	増減	
	億円	億円	億円	%
売上収益	4,410	4,239	+170	+4.0
（うち海外売上収益）	1,155	1,036	+118	+11.5
海外売上比率	26.2%	24.4		+1.8
売上原価	1,695	1,643	+51	+3.1
売上原価率	38.4%	38.8%		△0.4
売上総利益	2,715	2,595	+119	+4.6
コア営業利益	900	945	△45	△4.8
当期利益（親会社帰属）	715	712	+2	+0.3

為替レート(\$)

110円

108.72円

# 売上収益の増減



## 2017年度 業績予想

	2017年度 予想	2016年度 実績	増減	
	億円	億円	億円	%
売上収益	4,410	4,239	+170	+4.0
売上原価	1,695	1,643	+51	+3.1
売上原価率	38.4%	38.8%		
売上総利益	2,715	2,595	+119	+4.6
販管費	1,050	983	+66	+6.8
研究開発費	735	647	+87	+13.5
製品に係る無形資産償却費	25	15	9	+63.6
その他の損益*	△5	△4	△0	—
コア営業利益	900	945	△45	△4.8
総人件費	728	727	0	+0.1

\* 費用・損失の場合に△と表示

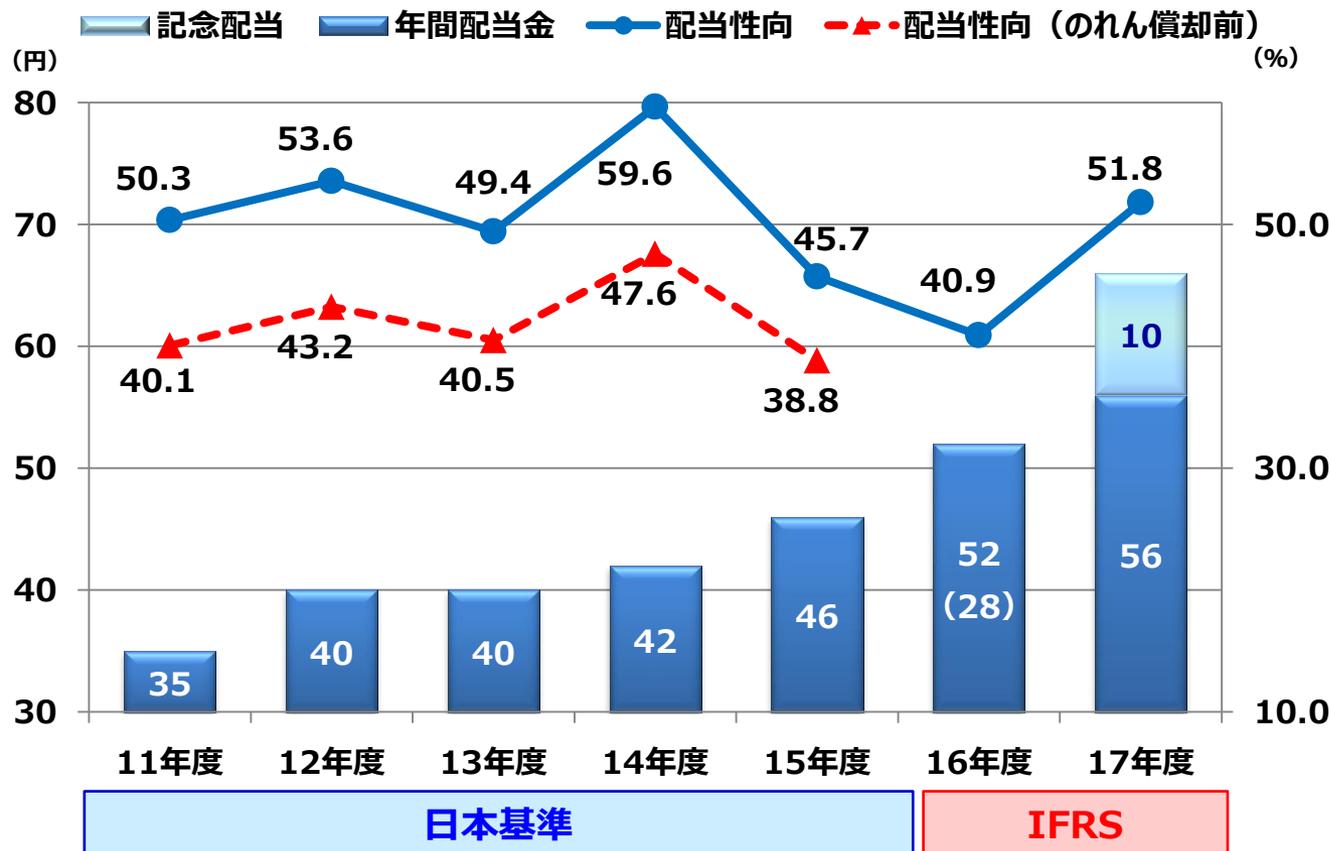
	2017年度 予想	2016年度 実績	増減	
	億円	億円	億円	%
コア営業利益	900	945	△45	△4.8
非経常項目*	—	△4	+4	—
営業利益	900	940	△40	△4.3
当期利益 <sub>(親会社帰属)</sub>	715	712	+2	+0.3

\* 費用・損失の場合に△と表示

# 株主還元

## 配当金推移

- 持続的成長の実現に向けた戦略的投資・研究開発投資を積極的に実施することにより企業価値の増大を図るとともに、株主還元についても安定的かつ継続的に充実させる。
- 「中期経営計画16-20」期間は、連結配当性向50%(IFRS)を目途に、中長期的な利益成長に基づいた配当を行う。



# Open Up the Future

医療の未来を切り拓く

独自の価値を一番乗りでお届けする、  
スピード感のある企業へ



田辺三菱製薬

# 補足資料



	2016年度	2015年度	増減		※2016年度 予想	達成率
	億円	億円	億円	%	億円	%
売上収益	4,239	4,257	△17	△0.4	4,250	99.8
(うち海外売上収益)	1,036	1,103	△67	△6.1	1,030	100.6
国内医療用医薬品	3,142	3,080	+61	+2.0	3,145	99.9
海外医療用医薬品	226	247	△20	△8.2	212	106.9
ロイヤリティ収入等	822	866	△44	△5.1	833	98.6
一般用医薬品	34	37	△3	△9.3	43	79.6
その他	14	25	△11	△44.8	14	94.4

※2016年度予想:2016年度第3四半期決算発表時(2017年2月6日)公表

## 国内医療用医薬品 重点品売上収益

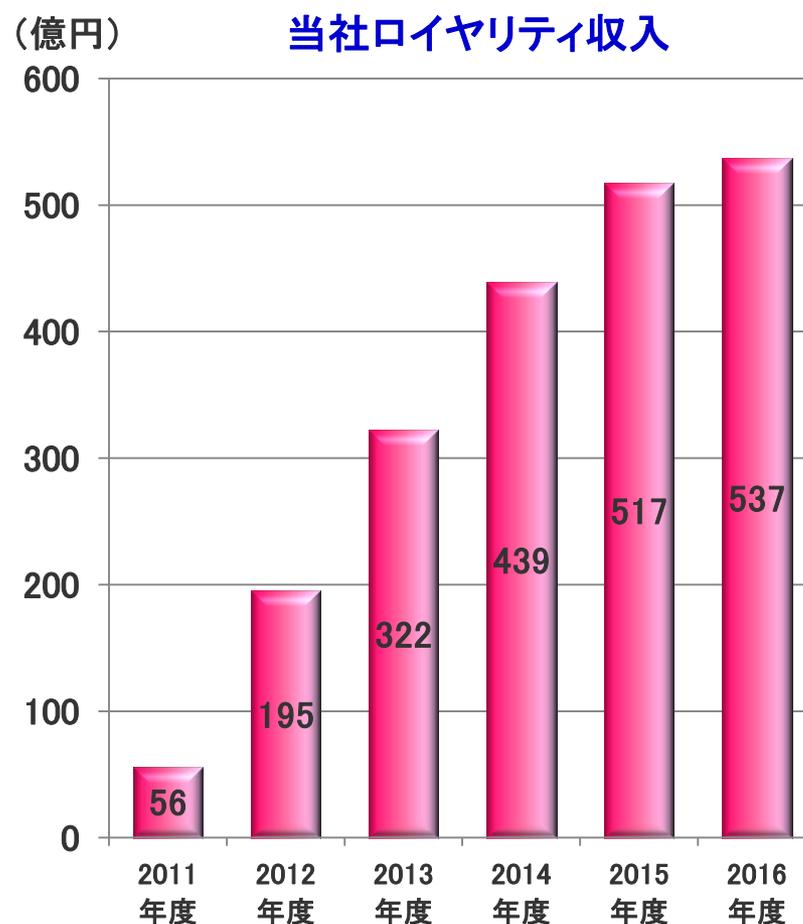
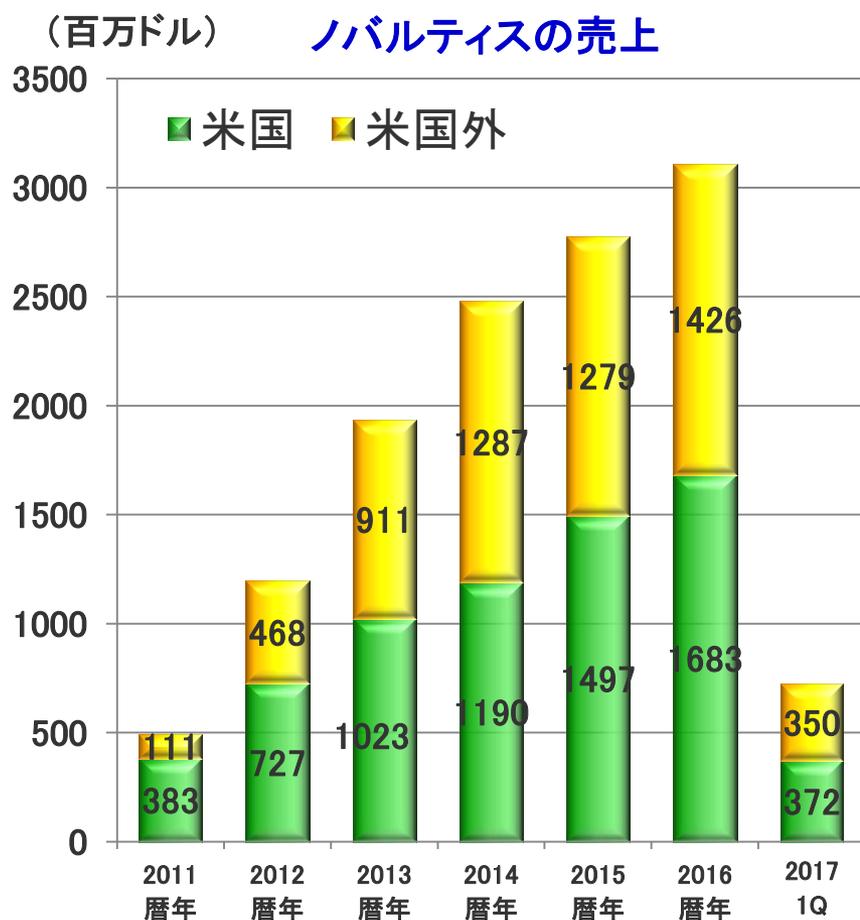
	2016年度	2015年度	増減		※通期予想	達成率
	億円	億円	億円	%	億円	%
レミケード	668	694	△26	△3.7	664	100.7
シンポニー	249	129	+119	+92.9	254	97.8
タリオン	189	168	+20	+12.3	191	99.1
テネリア	165	141	+24	+17.1	174	95.0
レクサプロ	112	95	+17	+18.6	125	89.9
イムセラ	49	41	+7	+19.3	48	101.4
カナグル	34	5	+29	+515.8	32	106.4
<b>重点品合計</b>	<b>1,469</b>	<b>1,275</b>	<b>+193</b>	<b>+15.2</b>	<b>1,491</b>	<b>98.5</b>
インフルエンザワクチン	127	137	△9	△7.1	120	106.6
テトラビック	99	95	+4	+4.5	97	101.9
ミールビック	59	49	+9	+18.8	57	103.1
水痘ワクチン	54	63	△8	△14.0	55	99.2
ジェービックV	39	36	+3	+9.2	38	104.0
<b>ワクチン合計</b>	<b>389</b>	<b>390</b>	<b>△1</b>	<b>△0.3</b>	<b>376</b>	<b>103.5</b>
<b>重点品・ワクチン合計</b>	<b>1,859</b>	<b>1,666</b>	<b>+192</b>	<b>+11.6</b>	<b>1,868</b>	<b>99.5</b>

※2016年度予想: 2016年度第3四半期決算発表時(2017年2月6日)公表

## 国内医療用医薬品 重点品売上予想

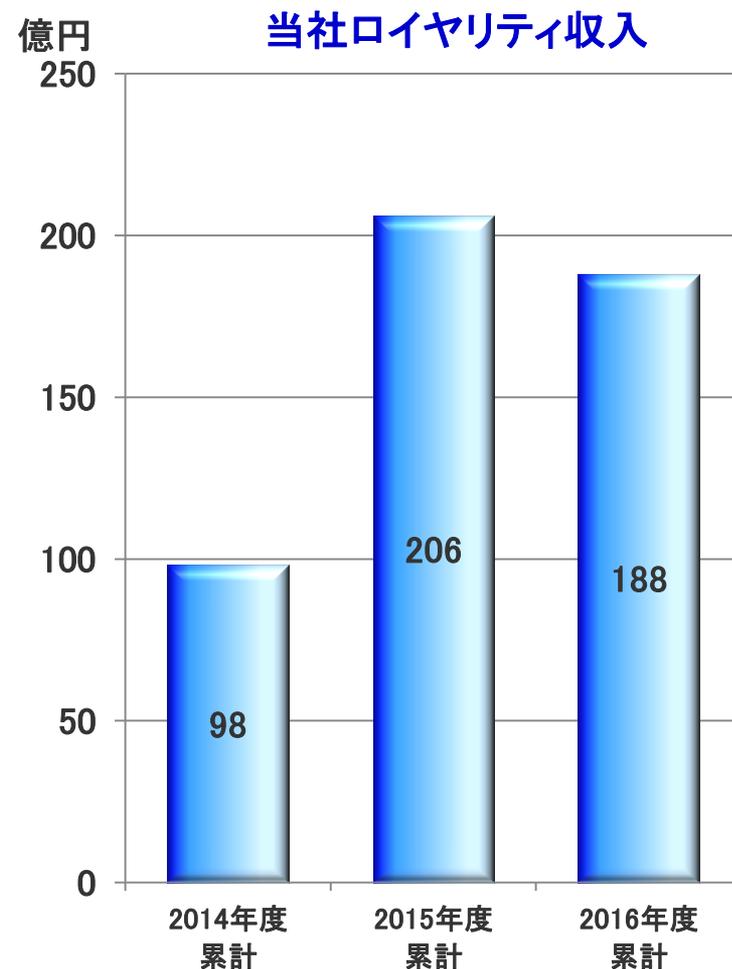
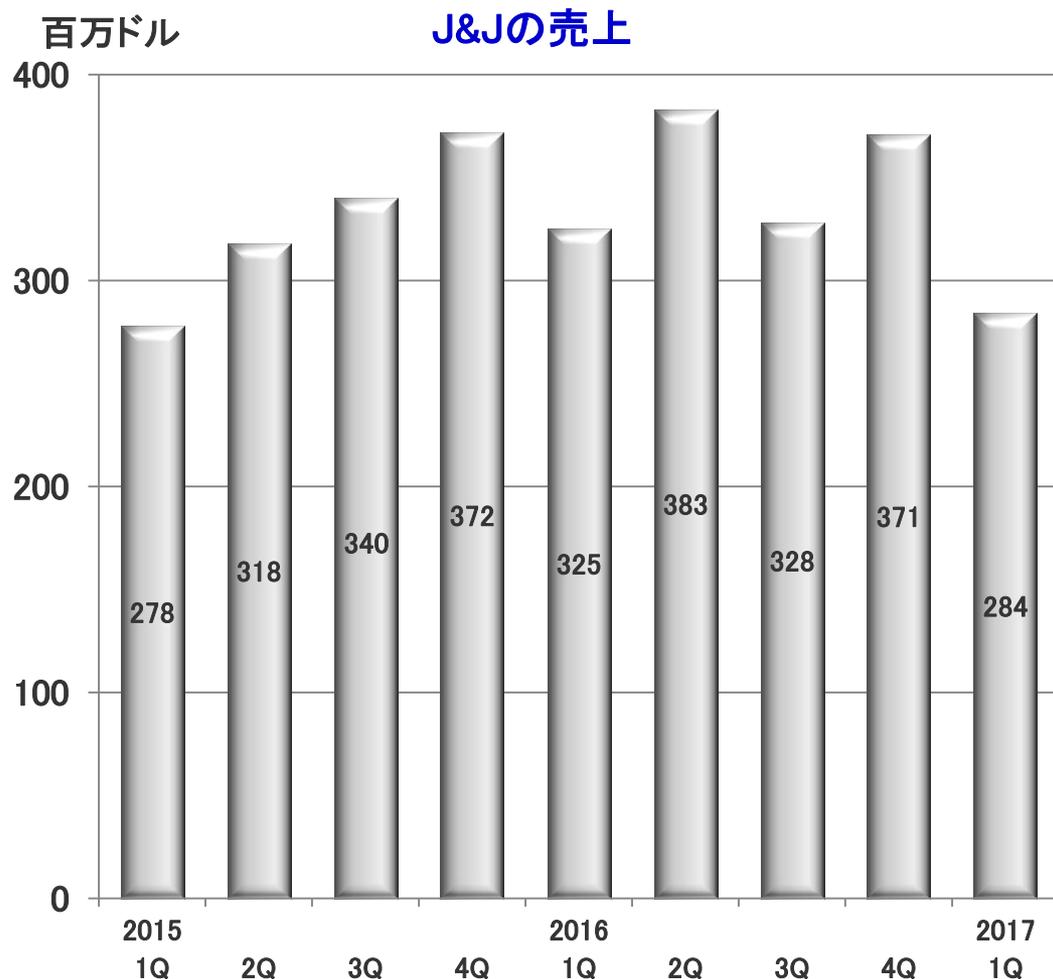
	2017年度	2016年度	増減	
	億円	億円	億円	%
レミケード	647	668	△21	△3.2
シンポニー	290	249	+40	+16.5
タリオン	208	189	+18	+9.7
テネリア	191	165	+25	+15.4
レクサプロ	129	112	+16	+14.6
カナグル	69	34	+34	+99.0
イムセラ	51	49	+2	+4.1
<b>重点品合計</b>	<b>1,586</b>	<b>1,469</b>	<b>+116</b>	<b>+7.9</b>
インフルエンザワクチン	141	127	+13	+10.4
テトラビック	92	99	△7	△7.4
水痘ワクチン	57	54	+3	+5.5
ミールビック	52	59	△6	△10.6
ジェービックV	39	39	△0	△1.0
<b>ワクチン合計</b>	<b>391</b>	<b>389</b>	<b>+2</b>	<b>+0.5</b>
<b>重点品・ワクチン合計</b>	<b>1,978</b>	<b>1,859</b>	<b>+118</b>	<b>+6.4</b>

- ◆ ノバルティスの2017年1Q(2017年1-3月)売上高は722百万ドル(前年同期 698百万ドル)
- ◆ 当社2016年度(2016年4-2017年3月)のロイヤリティ収入は537億円



# インヴォカナ・インヴォカメット

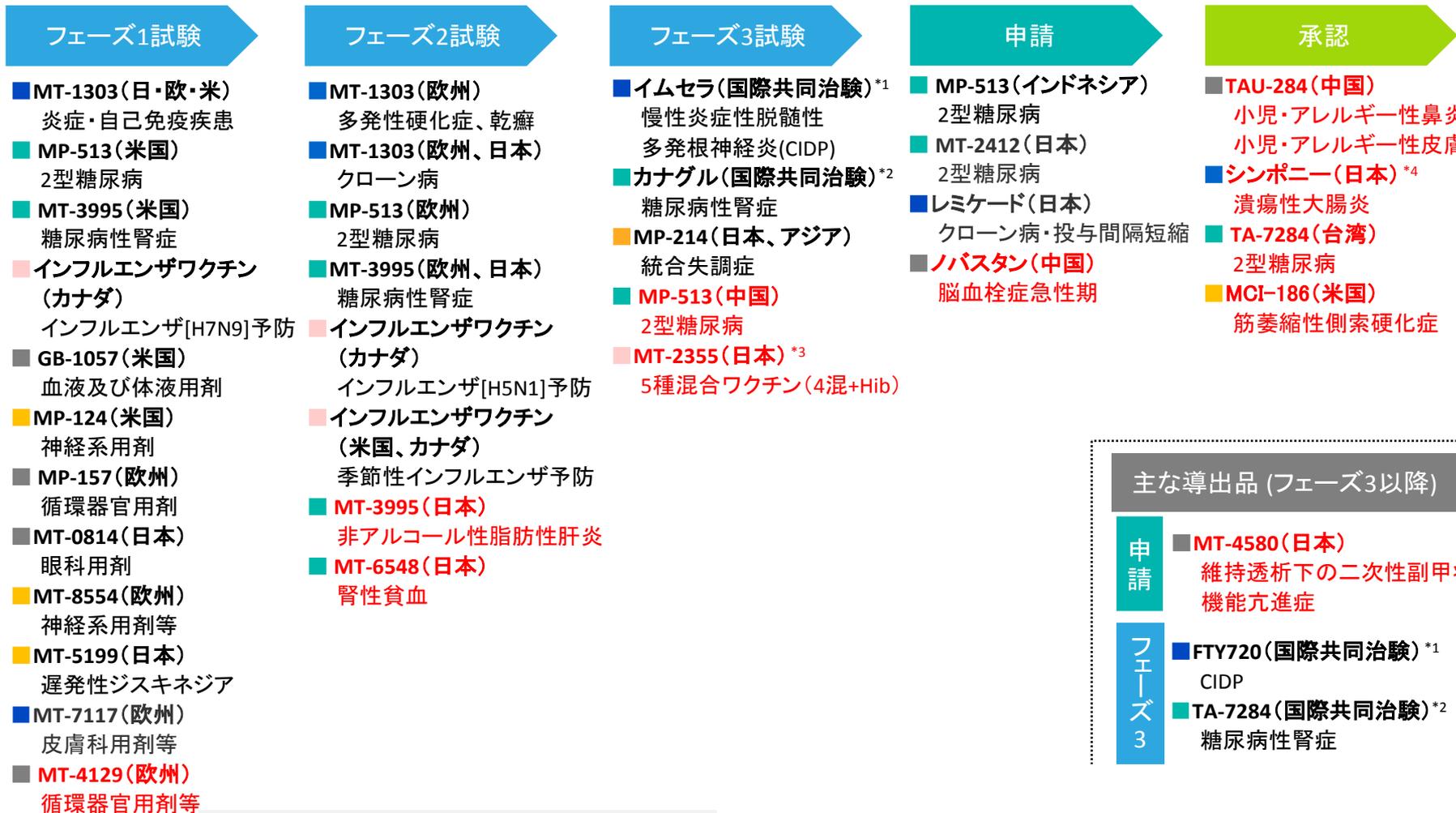
- ◆ J&Jの2017年1Q(2017年1-3月)売上高は284百万ドル(前年同期 325百万ドル)
- ◆ 米国において、2型糖尿病市場で6.0%の市場シェアを獲得
- ◆ 当社2016年度累計(2016年4月-2017年3月)のロイヤリティ収入は188億円



# パイプラインの現状

赤字:2016年度第2四半期 決算発表(2016年11月1日)以降進捗

2017年5月10日現在



治療対象疾患

- : 自己免疫疾患
- : 糖尿病・腎疾患
- : 中枢神経系疾患
- : ワクチン
- : その他

\*1 : 日本はノバルティスファーマと共同開発, 海外はノバルティスに導出  
 \*2 : 治験依頼者: ヤンセン リサーチ アンド デベロップメント  
 \*3 : 阪大微生物病研究会(日)と共同開発  
 \*4 : ヤンセンファーマ(日)と共同開発

## 注意事項

本資料に記載した一切の記述内容は、現時点での入手可能な情報に基づき、一部主観的前提をおいて合理的に判断したものであり、将来の結果はさまざまな要素により大きく異なる可能性がありますので、ご了承ください。